

「紫」 Purple

祭壇・聖卓や聖職の祭服等に使われる祭色には、期節に応じて、緑、紫、白、赤の4つがあります。紫は、主に降誕日（クリスマス）を迎える準備としての降臨節（アドベント）、復活日（イースター）を迎える準備としての大斎節（レント）の期間に用いられます。11月2日の諸魂日や通夜の式など、逝去者のための礼拝で用いられることもあります。

紫色の持つ意味は、慎み、悔い改め、待望です。主教のシャツやキャソックも紫色ですが、それは高貴、王家の色を意味し、古代より主教は教会の王子であるとされていたことに由来します。